

生活と創造 —異民族より成るアメリカ文化の未来

個人は社会の中で、どうしたら、努力の結果としての賜物である”才能”と参加への意志”コミットメント”を生かすことが出来るのでしょうか。

一人一人の欲望、目的、生き甲斐を妥協することなく、その違いをお互いに尊敬し、その価値を共有かつシェア出来る場を、積極的に創り出そうとする個人により良い社会への熱望、自分が生きて行く事で、ベターな社会が生まれると信じる”ソーシャルコンシャスネス/社会認識”こそ、社会へのステップとなります。

共生と孤立、和と軋轢、”夢、表現、存在の自由”を圧迫する社会のしがらみ、私達の前に立ちはだかるこの矛盾の壁、不自然に出来上がっている既成の事実に対して思う不快感と懐疑、その対峙と妥協の模索、混乱、苦痛の喘ぎ、懸命の試行錯誤の連続、自らの壁を崩そうとする必死の攻防。自らの生きる意志が直感する衝動の爆発が生む肉体のマキシマムな”限界の壁”に挑む力。結果を求めるのではなくこのトライが生み出す完全燃焼の”スーパーエネルギー”が可能にする未知の世界を認識出来た瞬間の陶酔と創造を実感する喜び。弛まぬ努力が生み出す自らの”新人間誕生”へのやれば出来る、という自信と信頼こそ、社会へのリンクの原点と考えます。

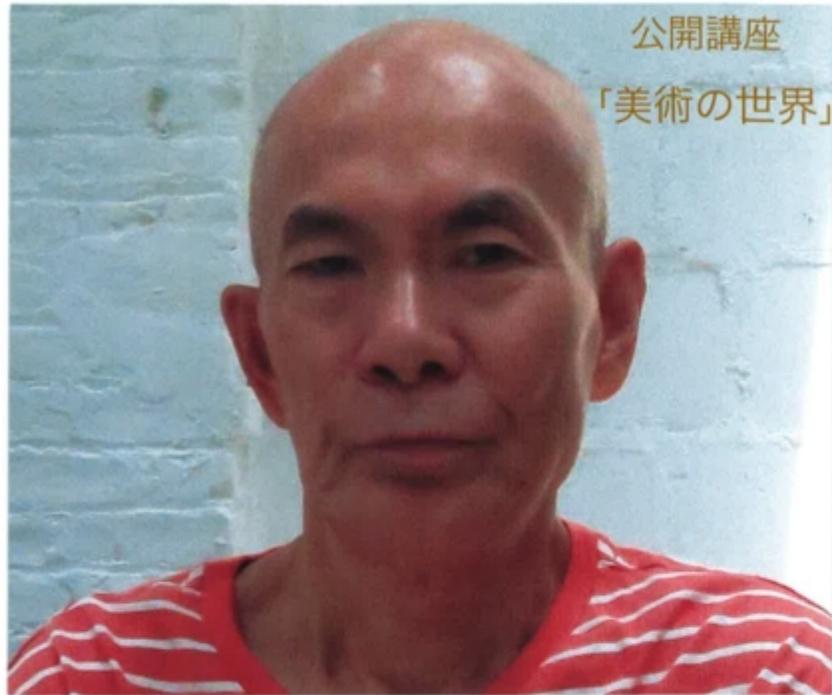
身の回りから始まる生活の中の矛盾や不合理的を、自分の眼でフェアに判断する勇気を持ち、習慣や慣習に捕われない意思や感覚を積極的に表現しようと試みることによって、次第に自分に適った生活空間を克ち取ることが出来るのです。

一人一人が、一つ一つの”社会の核”に成ることによって、”眠っている社会”からバイタルな活性化した”覚めた社会”に私達の手で変える事が出来ると信じています。

自然界がそうであるように、人間も又土壌としての社会の中に埋没し、長い間風雪の厳しさ、試練に晒され、耐え生き抜く事、”サバイバル”によって、次第にそれを恩恵として強靱な根を張り、その無限の再生のエネルギーの芽は土壌を突き破り、新たな宇宙空間へ向かつて激しく生きようとする。連綿と持続する生命体の爆発力、この生身の渾身の力を振り絞り、乗り移るように生まれてくる”生きている形”。見る人をして震撼させるバイブレイションの伝達がその心身と魂を揺さぶる覚醒のメッセージ。これがアートの原型/核であると確信しています。

四十四年間ニューヨークで真摯な情熱を注いで”生活と創造”の模索と土着を続けるクーン増田が将来に向かってインターナショナルな創造の世界に生きようとする人々に”新しい勇気”と”パースペクティブな創造の視野”がインスパイアされることを希望し、私の”生命の瞬間のスパーク”をぶつけ、挑戦し且つ、手向けとしてできる限りの”存在のメッセージ”を捧げたく思います。

”パフォーマンスレクチャー”と題する作品を作るべく頑張り、努力したいと願っています。尚、この名古屋芸大でのレクチャーは私の2006年より始まり、現在進行中の”10年間イターナル徘徊パフォーマンス”の一部としても、大切であることも記させていただきます。



CUSI MASUDA氏 特別講義 アートの社会性について

CUSI MASUDA (クーシ・マスダ) 氏

1944年静岡県生まれ。中学2年のときに美術教師の影響からアートに興味を持ち、武蔵野美術大学に進学。清水多嘉示の下でビジュアルアートと哲学を学ぶ。大学卒業後はゴジラ映画の制作に携わりながら芸術活動を続け、1970年にイタリア、フランス、アメリカ、メキシコを経てニューヨークへ渡る。以後ニューヨークを拠点に、配管工をしながら活発な活動を続けている。

対象： 学生、一般（聴講歓迎）

日付： 2014年7月22日火曜日

場所： 名古屋芸術大学西キャンパス
G201教室

時間： 10時40分～12時10分

その他： 講演時には、クーシ・マスダ氏の作品や活動の写真も会場に展示いたします。そちらもぜひご覧ください。